

## プレスリリース

東北初の取り組み

# 遠隔診療×レベル3.5ドローン飛行による 医薬品配送の実証実験を行います

デジタル技術を活用し、持続可能な地域医療モデルの構築を目指します

### 【発表の要旨】

医師による遠隔診療直後の、レベル3.5飛行によるドローン医薬品配送の実証実験を下記のとおりに実施します。

この実験は、令和3年度にデジタル田園都市国家構想推進交付金(Society5.0タイプ)に、新規採択された、本市の「遠隔診療・見守りDX基盤の構築による持続可能な地域づくり事業」の一環として行うもので、東北地方では初の取り組みです。

※3 同年に新規採択された全国5事例のうちの一つです

## 1 事業の新規性

これまで法規制によって不可能であった、目視外飛行(パイロットが遠隔地からドローンを操縦)に加えて、同じく規制によって行えなかった高速道路や鉄道の横断飛行が解禁されたことを受け、より社会実装に近い姿での実証実験を行うものです。

全国的にも遠隔診療に加えて医薬品配送をレベル3.5飛行で実施した例は数件のみで、東北では初となる事例です。

2 主催 八幡平市メディテックバレーコンソーシアム(会長:佐々木孝弘)

3 日時 令和6年11月11日(月) 13:00ごろから

※天候や国の審査状況によって変更の場合あり

4 場所 田山診療所および周辺地域

ドローンによる医薬品配送



次ページに続く

## 5 内容

**1) 遠隔診療の実施** 通院が困難な患者様の自宅に看護師が訪問し、田山診療所の望月統括院長が遠隔で診療を行います（※1 D to P with N型）。

**2) ドローンによる医薬品配送** 診療後、ドローンを遠隔操縦し、患者様の自宅まで医薬品を配送します。

**3) レベル3.5飛行の採用** 中山間地域の地理的特性を活かし、国道282号線およびJR花輪線を横断するルートでのレベル3.5飛行（※2）を実施します。

オンライン診療



医薬品準備



### ※1 D to P with N型

看護師(Nurse)が患者様(Patient)の自宅を訪問し、医師(Doctor)は、遠隔地から診療する遠隔診療モデルで、厚生労働省も積極的に推進しているものです。

この形態により、患者様は自宅にいながら専門的な医療サービスを受けることができ、看護師がその場でバイタルサインの測定やケアを行うため、「医師-患者」間のみで行うタイプより、安心して診療を受けられます。

ドローン配送



### ※2 レベル3.5飛行

ドローンの飛行レベルにおいて、レベル3(無人地帯上空の目視外飛行)とレベル4(有人地帯上空の目視外飛行)の間に位置します。

従来のレベル3飛行では交通誘導員の配置や道路横断前では一時停止を行う必要がありましたが、令和5年12月より新設されたレベル3.5飛行では、国の定める一定の安全対策を講じた上で目視外飛行時の道路や鉄道の横断が、容易化されるようになりました。

これにより、山間部や交通インフラが限られた地域でも効率的な物流の可能性が広がります。

遠隔操作による配送  
(目視外飛行)



### 少し説明

高齢化や過疎化が進む中山間地域では、医療アクセスの確保が大きな課題となっています。本事業では、デジタル技術を活用した遠隔診療とドローン配送を組み合わせることで、患者様の通院負担を軽減し、持続可能な地域医療モデルの構築を目指します。

### 【担当】

商工観光課 企業立地推進係  
課長補佐 中軽米真人  
電話 0195-74-2111  
(内線 1320)